非機能要件一覧　　（別紙2）

項番	大項目	中項目	メトリクス（指標）	要求目標等
A.1	可用性	継続性	RPO（目標復旧地点）（業務停止時）	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、障害発生時点 （日次バックアップ+アーカイブからの復旧）までのデータ復旧を目標とすること
A.2			RTO（目標復旧時間）（業務停止時）	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、1営業日以内でのシステム復旧を目標とすること。
A.3			稼働率	年間のシステム稼働率の目標を提案すること（必須となる稼働率は99.5%とする）
A.4			バックアップ取得方法	バックアップ取得方法（オンライン、オフライン、クラウド等）は、ベンダーによる提案事項とすること。また、バックアップの対象、範囲、頻度等を記載すること
B.1	性能・拡張性	業務処理量	ユーザ数	利用者数は、不特定多数のユーザが利用できること。
B.2			同時アクセス数	同時アクセス数は、不特定多数のアクセス有りとする。
B.3		性能目標値	オンラインレスポンスタイム	オンラインリクエストレスポンスタイムは、ベンダーによる提案とすること。
C.1	運用・保守性	通常運用	運用時間（平日）	平日運用時間は、24時間利用を前提とすること
C.2			運用時間（休日等）	休日運用時間は、24時間利用を前提とすること
C.3			データ復旧の対応範囲	データ復旧の対応範囲は、障害発生時のデータ損失防止とすること
C.4			監視情報	エラー監視（トレース情報を含む）及び稼働状態の監視を行うこと
C.5		サポート体制	保守契約（ソフトウェア）の種類	ソフトウェア保守契約は、アップデートをベンダーが実施すること
C.6			ライフサイクル期間	ライフサイクル期間は、5年とすること
C.7			定期報告会実施頻度	運用・保守の定期報告は、四半期に1回程度実施すること
D.1	セキュリティ	前提条件・制約条件	遵守すべき規程、ルール、法令、ガイドライン等の有無	遵守すべき規程、ルール、法令、ガイドライン等は、有りとする。
D.2		セキュリティリスク管理	ウィルス定義ファイル適用タイミング	システム脆弱性等に対応するためのウィルス定義ファイルについては、定義ファイルリリース時に実施すること
D.3		アクセス・利用制限	管理権限を持つ主体の認証	認証方法は、1回とすること
D.4			システム上の対策における操作制限度	操作制限は、必要最小限のプログラムの実行、コマンドの操作、ファイルへのアクセスのみを許可すること
D.5		データの秘匿	伝送データの暗号化の有無	伝送データについては、すべてのデータを暗号化すること
D.6			蓄積データの暗号化の有無	蓄積データについては、すべてのデータを暗号化すること
D.7			不正監視対象（装置）	不正監視対象は、重要度が高い資産を扱う範囲、あるいは、外接部分とすること
D.8		Web対策	セキュアコーディング、Webサーバの設定等による対策の強化	セキュアコーディング、Webサーバの設定等は、対策の強化をすること